

ふるさと歴史散歩

〔第68回〕 道隆寺⑪

道隆寺下遺跡の発掘調査は、平成7年7月19日に始まり同年9月11日に終了した。府中町で行われた発掘調査としては、昭和30〜40年代の数次にわたって、広島大学考古学研究室が実施した下岡田遺跡以来、実に30年ぶりの本格的な発掘となったので、広報誌や新聞報道の効果もあり、期間中は町内の人たちや広島市内からも見物に來たり、中には飛び入りで作業に参加した中・高校生もいた。

道隆寺下遺跡の発掘には、近所の人たちと数名の大学生の若者たちが作業員として参加してくれたので、大変よい発掘となった。多くの地元の人が農作業経験者であったため、少しずつ土を剥ぎ取る作業が大変丁寧であったのである。ただ、大学生の若者は体力に自信があるのか、どんどん掘り下げてしまい、うっかりすると遺構を壊しかねない危うさはあったものの、一日の作業開始と終了時のミーティングを通じて、調査の意

義と出土品の説明を実施することで、埋蔵文化財や、ふるさとの身近な歴史に対する学生の理解を深める、よい機会であった。

道隆寺下遺跡は、元は水田休耕地であったため、地表から約45センチの第一層の表土層は、田圃の土特有の黒色有機土層であった。そこで、この層のみをパワーシャベルで剥ぎ取ったが、普通の発掘ではこんなことをしない。かつて、ダム水没予定地の古墳や、中国縦貫道建設予定地の遺跡を発掘したことがあるが、鬱蒼と茂った雑木林の伐採から、表土剥ぎなどを発掘調査員も作業員と一緒にを行うため、土砂の運搬からシャベルやつるはし、鍬を使つての肉体的な重労働がでなければ、一人前の考古学者と呼ばれなかった。しかし、今は重労働から解放されて、発掘調査員が観察や記録、写真撮影などに専念できる体制ができています。この世界にもワークシェアリングが進んできたのだろうか。



発掘風景

道隆寺下遺跡の第二層は、厚さ40センチの黄色の褐色土層で、遺物は全く見られず、第一層水田耕作土の床土であるため、この層からシャベルを使つての人海戦術を行い、二・三日できれいに剥ぎ取った。しかし、第三層は厚さ二十センチの遺物包含層であったため、この層からは移植ゴテと竹へらで、丁寧に少しずつ剥がし、出土遺物を発掘した。この下の第四層は暗茶褐色土層で、遺物は一つ一つ出なかった。第五層はきれいな褐色土層で地山（人の手が入らず天然のままの状態）である。道隆寺下遺跡の出土遺物は、須恵器片、土師質土器片、平瓦、円面硯、素弁蓮華文丸瓦などがあつた。

府中町文化財保護審議会会長 横田 禎昭



正しいごみ出しにご協力を

府中町環境センター ☎286-3266



ごみの特別収集

午前8時30分までにごみステーションに出してください。

7 / 20 (月 / 祝)	北部	普通ごみ (月・木曜日収集地区)
	南部	有価物 (月曜日地区) ビン・缶・金属類・新聞・雑誌・布類 ダンボール

※環境センターへのごみの持ち込みは受け付けていません。



有価物の収集方法は...

品目別に順番 (新聞・雑誌、ダンボール、布類、ビン・缶の順) に収集します。後から出されたごみは収集されません。ごみは、品目別に離して置いてください。
 ※8時30分以降のごみ出しは絶対におやめください。
 少しでも多くの有価物を再商品化、再資源化するために、みなさんのご協力をお願いします。

有価物はルールを守って出しましょう

- ビン・缶
中身を空にし、洗う。ビンのふたは必ずはずす。スプレー缶は必ず使い切り、穴を開けずに出す。
- 布
雨にぬれるとカビが発生しやすくなり、再利用できないので、袋の口をしっかり縛るか、天気の良い日に出す。布団・毛布・枕・カーテン・パットは大型ごみ。クッション・座布団・ぬいぐるみは普通ごみ (30cm以上は大型ごみ)。バッグは普通ごみ。
- 新聞・雑誌・本類・ダンボール
雨にぬれてもかまわないので、袋に詰めず、ひもで縛る。菓子箱など厚紙でできた箱は普通ごみ。引越等で多量に出たダンボールは自己搬入を。(受付時間は祝日、年末年始を除く月～金曜日 午前9時～11時30分 午後1時～3時30分)